

# ちっちゃいものくらぶ

## ウミホタル（さん）

ネットで検索すると、まず驚いたのが、圧倒的にアクアラインのサービスエリアの「うみほたる」がたくさんヒットしたこと。ということは、ちっちゃいものくらぶのウミホタルさんは、意外に情報が少ないってことなんだ。

それで、今回は先日実際にウミホタルさんをとりに行かれた、藤田寛先生にお話を伺った。この時生物の藤田修先生と新谷先生も同行されたんだ。



カニマボコに群がるウミホタルさん

先生たちは、夜学校を出発し、内房線沿いのある海に行きました。ウミホタルさんは夜行性で、昼間は海の底の砂地の中で休んでいて、夜になると砂から出てご飯を探して泳ぎます。見かけによらず、結構速く泳ぎます。エビさんやカニさんなどと同じ甲殻類だそうです。

## 【ウミホタルさんのつかまえ方】

〈用意するもの〉

- ①ピンや缶、重りを入れたペットボトルなど（ふたつきのもの）
- ②タコ糸やひも
- ③餌:魚のアラや豚の肝臓が食いつきがよいようです。血の臭いに誘われて寄ってくるみたいです。でもこれらの餌だと、後で水が汚れるので、今はちくわを使うそうです。因みに「ちくわは小田原の鈴廣のがやっぱりいいんですか?」と思わず聞いてしまったんですが、鈴廣はかまぼこでしたね。お値段の高い物の方がより食いつくのかはわかりません。

〈作業〉

- ①容器にひもをつけて海に沈める。ふたには穴をあけておく。（餌の臭いに寄ってくるため）
- ②20～30分ほおっておいて、引き上げる。
- ③大きい子だと3.5mm、秋だと2～3mmのウミホタルさんが、バッチリ入ってる。



## 【なぜ光るの?】

ウミホタルさんが出す発光物質のルシフェリンが酵素の作用を受けて酸素と反応することで光る。

発光の目的は、威嚇、仲間に危険を知らせる、求愛などだそうです。

飼育下で光ってもらうには、物理的なストレスを加えればいいらしいけど、あんまりやると疲れて死んじゃうから、ほどほどにね。